

## ■住民研修・【事例発表会】

### ◎NPO 法人 小野川と佐原の町並みを考える会

○発表テーマ：「佐原の震災と復興」

○発表者：理事長・高橋賢一

団体所在地：〒287-0003 ☎ 0478-54-7766

千葉県香取市佐原イ 1902 番地 9

E-mail：sawara.machinami@bz03.plala.or.jp

URL：http://www.sawara-machinami.com

理事会等：理事 16 名（理事長・高橋賢一）

会員数：会員 89 名（内訳：正会員 70 名、賛助会員 19 名）

年会費：正会員 12,000 円、賛助会員 1 口 3,000 円

設立年月日：平成 3 年 1 月

#### （1）地区概要

江戸への利根川舟運で栄えた河岸のまち、昭和初期まで商業都市として繁栄した町並みが小野川沿いや香取街道沿いに残り、平成 8 年に重伝建に選定された。また、その延長を市の景観形成地区として指定している。

- ・伝建地区 7,1ha、景観形成地区 11,4ha
- ・伝建特定物 93 件、工作物 3 件、環境物 1 件
- ・景観形成指定建築物 37 棟

#### （2）東日本大震災の被害

佐原は、震度 5 強の強烈な横揺れに襲われた。最も大きな被害は、3,500ha（市街地 140ha）にも及ぶ液状化で、5,000 棟（半壊以上 2,500 棟）の家屋が被害にあった。利根川の低地に形成された都市から今回の地震の揺れ方で大きな影響を受ける結果となった。



（町並み保存地区の被害）

町並み保存地区は、液状化の被害が少なかったものの被害は甚大で、半数以上の建物に大なり小なりの被害を被った。（立入り危険判定 116 件、要注意 246 件）

被害の傾向を分析すると、①棟の被害が大半、②土葺き瓦の滑り、③小野川沿い建築物の傾き、④土蔵の被害が甚大、⑤県指定文化財の被害が甚大、⑥古建築でも本格的な修理を行った物件には被害が少なかった。等々が上げられる。

この結果から、ややもすると古建築は地震に弱いとされてきたが、必ずしもそうではないことが立証されたよ

うな結果となった。大きな被害を被った建築物は、長年手入れが入ってなかった建物であった。



#### （3）本会の対応と支援活動

20 年間活動してやっとここまで来た町並みが壊されることのないよう、民としてできることを頑張ることにした。主なものを挙げると①直後の建物危険度判定調査への協力、②会の外見被害調査、③支援委員会の立ち上げ、④「佐原の県指定建造物を守る会」への協働等々が挙げられる。

支援金の募集では、各地の催しに参加して訴えかけたり、全国の仲間へも呼びかけ支援金が寄せられた。また、この活動に併せてオークション等を開催して支援金を集め、寄付して頂いたものもあった。3 月時点で 600 万円に達し、第一回目の支援を行った。全国の皆様や協力者にこの場を借りて御礼申し上げます。



参考「異人館復興」 神戸市教育委員会

県指定文化財の修理においては、所有者負担が大きすぎて困難であったが、活動が実り、県が 75%（従来 50%）補助することになり、所有者負担が 5%（従来 3 分の 1）で済むようになった。

#### （4）情報・ネットワークの意義

本会は、全国町並み保存連盟の団体会員であるが、震災直後に仲間から、神戸市教育委員会発行の「異人館復興」を参考にして、これを下回らないで頑張ってくださいとのメールが入った。甚大な被害に右往左往していた私たちにとって先が見え、活動の道しるべとなった。その後も、各地から情報や応援の輪が広まり心強く活動が続けられている。

#### （5）後継者の育成

本会は発足から 20 年となった。この間に仲間作りや会員の募集を行ってきたが、思うように行かずここまで来てしまった。会員が高齢化してしまった今、早急に会員増加と若返りを図りたい。